

和泉市長

辻ひろみちさん

初心 忘れず!

本年、昭和31年9月に誕生した和泉市は市制施行60周年となり、「還暦」にあたる節目の年を迎えます。人口も市制施行時の3倍を超える18万人となり、「活力のあるまち」「子育てしやすいまち」と注目される魅力ある都市へと発展してまいりました。平成28年度はその節目の年を祝うため盛りだくさんのイベントが開催されます。和泉市民の皆様の郷土愛で、60周年を大いに盛り上げてまいりましょう!



「いあい」

平成8年に和泉市議会議員に当選させていただき、本年、政治家として20年の節目を迎えることができました。

振り返りますと山あり谷ありの道のりではありましたが、多くの皆様のご支援とご指導のお陰をもちまして、これまで頑張ってきたことができたことと心から感謝いたしております。市長就任後は、課題が山積するなか、市民の皆様や議会のご理解とご協力を頂きながら、「成功の反対は先送り」と肝に銘じて、職員と一丸となり前倒しで様々な事業を推進してまいりました。

市長就任からの7年間を思い起こせば、長年の懸案事項であった土地開発公社の解散、和泉市立病院の経営見直しと移転新築、和泉府中駅前再開発事業の完了、大型商業施設やホテルの誘致など、和泉市が更に躍進するための基盤を整備できたものと確かな手ごたえを感じています。

室町時代、能を大成した世阿弥は「初心忘るべからず」という言葉を残しています。今では、「初めの志を忘れてはならない」という意味で使われていますが、世阿弥の伝書「花鏡」では、「自分の未熟さや無能さを受け入れながらも、挑戦していく心構えを忘れず、どのような試練にも自ら進んで立ち向かっている」という趣旨で使われています。

今後も、市政の舵取りは容易ではありませんが、初心を忘れず、市民生活の向上と和泉市の発展のため、市民の皆様と手を携えて、全身全霊で市政運営に取り組んでまいりますので、引き続き皆様の温かいご理解とご支援を心からお願いいたします。

辻ひろみち

ダイナミックに改革続行 28年度、躍進のまちづくり



新市立病院

去る3月28日に閉会した平成28年和泉市議会第1回定例会において、平成28年度一般会計予算をはじめとする各議案がすべて可決されました。

予算は、一般会計で638億円、対前年度比8.5%の増、また特別会計や企業会計を含めた予算総額で1,225億円、対前年度比13.4%の増で過去最高額となっています。

平成28年度は、辻市長にとって市政運営2期目の実質的な総仕上げの年度であり、次の4点の項目について、重点的に取り組まれることになります。

- 1 教育・生涯学習環境の充実
- 2 出産・子育て支援体制の充実
- 3 健康・福祉施策の充実
- 4 安全・安心なまちづくり

<教育・生涯学習環境の充実>

- ・義務教育9年間を見通した取り組みを進める小中一貫教育が、平成29年度の全校区本格実施に向け、新たに3中学校区で実施されます。
- ・元大阪府立横山高等学校跡地に整備を進めている「和泉市総合スポーツセンター」については、300席を超える内野スタンドやナイター照明を完備した野球場が7月にオープンします。

<出産・子育て支援体制の充実>

- ・一人あたりの妊婦健康診査公費負担額が9万円から12万円に拡充され、大阪府内の最高額に並びます。
- ・留守家庭児童会（仲よしクラブ）の開設時間が10月をめぐり午後7時まで延長されます。

<健康・福祉施策の充実>

- ・平成30年4月の開院をめざして、新市立病院の建設工事に着手されます。
- ・女性のがん罹患数が最も多い乳がん検診の自己負担が無料化されます。

<安全・安心なまちづくり>

- ・街頭犯罪の発生抑止を目的に防犯カメラが増設されます。
- ・はつが野地区において、中南部地区の新たな防災拠点となる「(仮称)中央消防署」の整備に着手されます。

<市制施行60周年記念事業>

- ・後世に伝統工芸の技を継承する「人間市宝」の認定、「書の詩人 相田みつを展」の開催、和泉市の本格だんじり35台が集う「(仮称)和泉だんじり大集合」の支援、NHKラジオ公開収録歌謡番組「ふるさと自慢うた自慢」の開催、黒鳥山公園「千本桜構想」のキックオフイベントなどが実施されます。

変動する時代の流れに即応する「和泉躍進プラン(案)」を着実に実施し、質の高い行政運営とまちづくりをめざす辻市長の2期8年目に大きな期待を寄せています。



施設一体型小中一貫校（はつが野校区）



和泉市総合スポーツセンター

復興支援、自治体間の今後の課題

昨年8月、辻市長が、宮城県から招待を受け被災自治体視察のため、南三陸町と気仙沼市を訪問されました。

宮城県では、まず村井知事と面談され、宮城県内被災地の復興の現状や今後の防災対策に関して意見を交換されました。その後、高台で行われている大型の宅地開発、沿岸部の防潮堤整備、漁港の復興などを視察されました。

今年1月現在、東日本大震災と直後の原発事故で、被災3県（岩手、宮城、福島）から県外に避難を続けている住民は、今なお5万人を超え、大阪府にも729人の避難者がおられます。ピーク時の県外避難者7万3775人から約3割の方々が帰還されたこととなりますが、震災から5年が経過した今も大半が戻られていないのが実態です。

そのような中であって、東北は、力強い復興への取り組みが実を結び、以前の活気を取り戻しつつあります。5年前に辻市長が復旧支援のボランティアの皆さんとともに南三陸町を訪れた時と比較すると、国から大型の予算が付くようになり、復興のまちづくりは進んでいるようです。しかし、その事業を進める職員の不足が、大きな課題となっています。

和泉市では、震災直後から、復興支援のため、大槌町や石巻市に職員派遣を行ってきましたが、この現状を目の当たりにし、辻市長は、平成28年度に南三陸町へ職員を派遣することを約束されました。

和泉市の職員が派遣されることで、復興事業が少しでも前に進み、また被災地で経験を積んだ職員が、今後の和泉市の防災や被災時の対応において、中心的な役割を担っていただけるものと期待しています。



知事室で意見交換 右上 宮城県 村井知事、左上 和泉市 辻市長